



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月4日

上場会社名 株式会社フジ・メディア・ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4676 URL <https://www.fujimediagd.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金光 修
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員常務 (氏名) 奥野木 順二 (TEL) (03)3570-8000
 財経局長
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	389,691	△18.5	14,769	△40.2	22,014	△28.7	20,856	△39.5
2020年3月期第3四半期	477,936	6.6	24,717	14.0	30,891	12.1	34,466	123.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 39,599百万円(△6.7%) 2020年3月期第3四半期 42,462百万円(165.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	90.83	—
2020年3月期第3四半期	148.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	1,319,016	769,774	57.6
2020年3月期	1,254,613	745,574	58.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 759,423百万円 2020年3月期 735,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	22.00	—	22.00	44.00
2021年3月期	—	18.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	569,400	△9.8	13,000	△50.6	18,200	△47.8	9,000	△78.2	39.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	234,194,500株	2020年3月期	234,194,500株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	8,596,657株	2020年3月期	2,863,495株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	229,626,973株	2020年3月期3Q	231,488,960株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

政府の月例経済報告によると、当第3四半期連結累計期間の日本経済は「先行きについては、感染拡大の防止策を講じるなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染症拡大による社会経済活動への影響が内外経済を下振れさせるリスクに十分注意する必要がある」と記されており、企業の業況判断は「厳しさは残るものの、改善の動きがみられる。」とされております。

当社グループにおいても、新型コロナウイルス感染症による影響により、広告収入の減少や旅行・観光需要の減少、イベントの中止・延期などの影響をうけました。

こうした状況の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業、その他事業すべてのセグメントで減収となり、前年同期比18.5%減収の389,691百万円となりました。

営業利益は、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業で減益、その他事業で増益となり、前年同期比40.2%減益の14,769百万円となりました。経常利益は前年同期比28.7%減益の22,014百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益に計上した投資有価証券売却益が増加した一方で、前期に計上した厚生年金基金代行返上益の反動減などにより、前年同期比39.5%減益の20,856百万円となりました。

報告セグメントの業績の状況は以下の通りであります。

	売上高			セグメント利益		
	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減 (%)	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減 (%)
メディア・コンテンツ事業	392,096	327,256	△16.5	12,490	10,526	△15.7
都市開発・観光事業	81,671	58,922	△27.9	13,267	4,896	△63.1
その他事業	14,733	13,103	△11.1	379	385	1.6
調整額	△10,565	△9,590	—	△1,419	△1,038	—
合計	477,936	389,691	△18.5	24,717	14,769	△40.2

(メディア・コンテンツ事業)

㈱フジテレビジョンは、新型コロナウイルス感染症による影響を受け、放送事業収入は減収となりました。ネットタイム収入は、スポーツイベントなどの単発番組が中止や延期になったことから減収、スポット収入は、回復傾向にはあるものの経済活動の停滞による企業の業績悪化の影響で減収となりました。その他事業収入は、ビデオ事業が好調だったものの、イベントの中止や延期をはじめ映画、MDなどで影響を受けたことから全体では減収となりました。営業費用の低減に努めましたが減収減益となりました。

㈱ビーエスフジは、放送事業が減収だったものの、営業費用がおさえられたことから減収増益となりました。

㈱ニッポン放送は、ラジオ通販事業が好調でしたが、主力の放送事業が減収となり、減収減益となりました。

㈱ポニーキャニオンは、旧譜作品の販売は堅調でしたが、パッケージ販売全体では減収となり、イベント収入も苦戦し、売上高全体で減収となりました。利益面では営業費用が抑えられたことから増益となりました。

㈱フジパシフィックミュージックは著作権使用料収入と原盤使用料収入が増収となりましたが、マネージメント収入、映像制作収入が減収となり、全体では減収増益となりました。

㈱ディノス・セシールのディノス事業は、テレビ通販で美容健康商材を中心に引き続き好調を維持した他、在宅需要等を背景に家庭用品や家具などが好調で増収となりましたが、セシール事業はカタログ事業が伸び悩み減収となりました。その結果、㈱ディノス・セシール全体としては微増収、販管費抑制にも努め増益となりました。

㈱クオラスは、広告収入が低調だったことで減収となり、営業損失を計上しました。

㈱フジゲームスは、スマートフォンゲームが苦戦し、営業損失を計上しましたが、営業費用の削減に努め、赤字幅は縮小しました。

以上の結果、メディア・コンテンツ事業全体の売上高は前年同期比16.5%減収の327,256百万円となり、セグメント利益は同15.7%減益の10,526百万円となりました。

(都市開発・観光事業)

㈱サンケイビルは、住宅事業において分譲マンション販売が増加しましたが、ビル事業と資産開発事業が減収となり、全体で減収減益となりました。

㈱グランビスタホテル&リゾートは、新型コロナウイルス感染症による影響で、インバウンド含む旅行・観光需要の減少を受けて減収となり、営業損失を計上しました。

以上の結果、都市開発・観光事業全体の売上高は、前年同期比27.9%減収の58,922百万円となり、セグメント利益は、同63.1%減益の4,896百万円となりました。

(その他事業)

その他事業全体の売上高は前年同期比11.1%減収の13,103百万円となりましたが、セグメント利益は販管費抑制に務め、同1.6%増益の385百万円となりました。

持分法適用会社では、㈱WOWOW、伊藤忠・フジ・パートナーズ㈱、㈱産業経済新聞社などは持分法による投資利益に貢献しました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末の総資産は1,319,016百万円で、前期末比64,403百万円(5.1%)の増加となりました。

流動資産は428,361百万円で、前期末比4,327百万円(1.0%)の増加となりました。これは、有価証券が26,376百万円、受取手形及び売掛金が18,746百万円減少した一方で、現金及び預金が55,219百万円増加したこと等によります。

固定資産は890,465百万円で、前期末比60,119百万円(7.2%)の増加となりました。これは、投資有価証券が38,107百万円増加したことや、建物及び構築物が18,091百万円増加したこと等によります。投資有価証券の増加は主に当社保有上場有価証券の含み益の増加によるものであります。

負債は549,241百万円で、前期末比40,203百万円(7.9%)の増加となりました。

流動負債は140,084百万円で、前期末比26,000百万円(15.7%)の減少となりました。これは、短期借入金が23,691百万円、支払手形及び買掛金が8,402百万円減少したこと等によります。

固定負債は409,157百万円で、前期末比66,204百万円(19.3%)の増加となりました。これは、長期借入金が67,523百万円増加したこと等によります。都市開発・観光事業において資金調達を行ったため増加しております。

純資産は769,774百万円で、前期末比24,200百万円(3.2%)の増加となりました。これは、剰余金の配当を9,325百万円行った一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益20,856百万円を計上したことや、その他有価証券評価差額金が18,766百万円増加したこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、特に第1四半期に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、広告市況の低迷やインバウンドを含む観光需要の減少などで、メディア・コンテンツ事業、都市開発・観光事業ともに減収減益となりました。

第2四半期以降は消費活動や広告市況が回復傾向ですが、第4四半期に入り、新型コロナウイルスの感染再拡大による緊急事態宣言の発出などにより、当社業績に影響が出てくることも考えられます。今後も状況を見極めながら効率的な事業運営に努め、収益力の向上を図ってまいります。

こうした状況の下、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、2020年7月22日付けの「連結業績予想および配当予想に関するお知らせ」で公表した連結業績予想に対して、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも、上回って推移しています。

一方、第4四半期においては、主に都市開発・観光事業で特別損失等の計上を想定しておりますが、現時点において入手可能な情報をもとに、足元の動向等も勘案した結果、7月22日に公表した業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	76,126	131,345
受取手形及び売掛金	110,390	91,643
有価証券	97,536	71,160
たな卸資産	101,163	94,028
その他	39,725	40,547
貸倒引当金	△908	△364
流動資産合計	424,033	428,361
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	135,228	153,319
土地	258,037	262,628
その他（純額）	42,759	35,979
有形固定資産合計	436,024	451,928
無形固定資産		
のれん	811	733
その他	17,235	20,094
無形固定資産合計	18,046	20,827
投資その他の資産		
投資有価証券	333,806	371,913
その他	44,242	47,427
貸倒引当金	△1,773	△1,630
投資その他の資産合計	376,276	417,710
固定資産合計	830,346	890,465
繰延資産	233	189
資産合計	1,254,613	1,319,016

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	40,976	32,574
電子記録債務	12,374	15,571
短期借入金	40,559	16,868
返品調整引当金	673	491
役員賞与引当金	436	212
ポイント引当金	457	378
環境対策引当金	47	—
その他	70,559	73,987
流動負債合計	166,085	140,084
固定負債		
社債	20,000	10,000
長期借入金	182,829	250,352
役員退職慰労引当金	2,443	2,434
退職給付に係る負債	37,835	37,781
その他	99,845	108,589
固定負債合計	342,953	409,157
負債合計	509,038	549,241
純資産の部		
株主資本		
資本金	146,200	146,200
資本剰余金	173,794	173,797
利益剰余金	346,693	358,224
自己株式	△3,997	△10,023
株主資本合計	662,691	668,198
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	76,475	95,242
繰延ヘッジ損益	△218	△260
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	△1,310	△1,968
退職給付に係る調整累計額	△3,686	△3,267
その他の包括利益累計額合計	72,739	91,225
非支配株主持分	10,143	10,351
純資産合計	745,574	769,774
負債純資産合計	1,254,613	1,319,016

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	477,936	389,691
売上原価	335,579	268,917
売上総利益	142,356	120,774
販売費及び一般管理費	117,639	106,004
営業利益	24,717	14,769
営業外収益		
受取配当金	2,986	2,941
持分法による投資利益	3,006	3,459
その他	1,570	2,688
営業外収益合計	7,564	9,089
営業外費用		
支払利息	873	1,061
投資事業組合運用損	19	379
その他	497	403
営業外費用合計	1,390	1,844
経常利益	30,891	22,014
特別利益		
投資有価証券売却益	532	10,946
厚生年金基金代行返上益	18,832	—
その他	74	358
特別利益合計	19,440	11,304
特別損失		
新型コロナウイルス感染症による損失	—	1,852
その他	2,604	541
特別損失合計	2,604	2,394
税金等調整前四半期純利益	47,728	30,923
法人税、住民税及び事業税	7,019	9,129
法人税等調整額	5,894	133
法人税等合計	12,913	9,263
四半期純利益	34,814	21,660
非支配株主に帰属する四半期純利益	347	804
親会社株主に帰属する四半期純利益	34,466	20,856

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	34,814	21,660
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	609	17,810
繰延ヘッジ損益	△8	△21
土地再評価差額金	875	—
為替換算調整勘定	△554	△704
退職給付に係る調整額	7,065	573
持分法適用会社に対する持分相当額	△340	281
その他の包括利益合計	7,647	17,938
四半期包括利益	42,462	39,599
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	41,840	39,341
非支配株主に係る四半期包括利益	621	257

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I. 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディア・コ ンテンツ事業	都市開発・ 観光事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	391,683	81,317	473,001	4,934	477,936	—	477,936
セグメント間の 内部売上高又は振替高	413	353	766	9,798	10,565	△10,565	—
計	392,096	81,671	473,767	14,733	488,501	△10,565	477,936
セグメント利益	12,490	13,267	25,757	379	26,137	△1,419	24,717

- (注) 1 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△1,419百万円には、セグメント間取引消去2,162百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,582百万円が含まれております。全社費用は、認定放送持株会社としての親会社の費用であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II. 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 事業 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	メディア・コ ンテンツ事業	都市開発・ 観光事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	326,999	58,620	385,619	4,071	389,691	—	389,691
セグメント間の 内部売上高又は振替高	256	301	558	9,031	9,590	△9,590	—
計	327,256	58,922	386,178	13,103	399,281	△9,590	389,691
セグメント利益	10,526	4,896	15,422	385	15,808	△1,038	14,769

- (注) 1 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△1,038百万円には、セグメント間取引消去2,390百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,429百万円が含まれております。全社費用は、認定放送持株会社としての親会社の費用であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。